

クローズアップ

# NGO・NPO

特定非営利活動法人

## 浜松NPOネットワークセンター(N-Pocket)

～N-Pocketの多文化共生事業～

Close Up

NGO・NPO

浜松市は人口の約四割弱、三万人が外国人の全国有数の外国人集住都市です。一万七〇〇〇人以上のブラジル人をはじめ、その多くは工場で働く労働者とその家族です。

当センターは「子ども、障がいのある人、高齢者、在住外国人によりよい、自立を支え、誰もが安心できる社会」を目指して、一九九八年に設立した民設民営の中間支援組織です。一九九九年に多文化共生事業を立ち上げました。教育、医療、アートを三つの柱に、「ネットワーカー」として在住外国人の生活上の問題を統合化し、自治体だけでは解決できない問題について、当事者に近いNPOの立場から「政策提言」を行っています。また、地域の活動を全国レベルのネットワークにつなぎ、情報共有によって活動の専門性を高め、NPOとして共通の立場を確立することを目指しています。最近では教育委員会や行政との連携も築かれ、ホットラインとして頼られて、活躍する場面も増えてきました。

### 多文化共生の次世代リーダーの 発掘・育成 ネットワーク

二〇〇二年に開催した「外国人教育支援全国交流会」で、「高校進学」の道を広げ、身近にモデルとなる先輩や将来の展望が見えることは、小中学校で悩んでいる子どもたちの励みになる」という提案を受け、高校生向けのプロジェクトに取り組んでいます。

これまで事業のパートナーとして当事者の外国人を探してきましたが、出稼ぎの大人

たちは時間的、経済的に余裕がなく、継続して組織的にかかわることが難しい現状があります。そこで、高校生・大学生の「ロールモデル」を発掘すると同時に、多文化共生の次世代リーダーとして育ててほしい、という願いを込めて、大壁画を描いた「ミューラル・プロジェクト」、外国人高校生・大学生の「全国交流会」「映像製作」などを行っています。日本南米若者協会(AJLAN)という名前をつけて、一〇人前後の高校生が参加しています。

### 中学卒業後の進路保障を求めて

二〇〇四年からは多言語の「高校進学ガイダンス」を開催。初回から七〇人がつめかけ、保護者や支援者の「このような情報提供を待っていた！」という反響の大きさに、第二回は浜松市・市教育委員会との共催にこぎつけ、今年五月のガイダンスは、約二二〇人が参加。AJLANの高校生が自分たちの高校の特色や学校生活について紹介したり、中学生や保護者たちの相談にも乗りました。

八月には、高校進学をテーマに再び「全国交流会」を開催。一五都道府県の進学ガイダンスの主催者が一堂に会しました。外国人向けの進学ガイダンスの開催は年々各地で増えていますが、高校の入試特別枠や入学後の支援がある県はまだ少なく、制度があっても十分機能していない現状が明らかになりました。今後、各県の進路状況、ガイダンス開催状況、当事者・支援者の意見をとり

(特活) 浜松NPOネットワークセンター (N-Pocket)

〒430-0926 静岡県浜松市砂山町326-21 TEL &amp; FAX 053-459-1558

E-mail : info@n-pocket.jp URL : http://www.n-pocket.jp/

まとめ、自治体や国に政策提言として出していく予定です。

## 「浜松外国人無料検診会」事務局として

浜松では、一九九六年から「浜松外国人医療援助会(MAF浜松)」が年に一回無料検診会を行っています。約六〇〇人の検診者と、医療関係者と通訳をはじめ約四〇〇人のボランティアが参加。資金はロータリークラブや個人の寄付、助成金でまかない、会場は総合病院の全面的協力で行っています。

運営は、医師、検査会社、外国人支援団体、外国人当事者、医大生にNPOとさまざまな立場の約二〇名の委員で構成され、議論を重ねながらニーズに合わせた検診会として年々発展し、今年で一〇周年を迎えます。その核となる事務局を二〇〇〇年から当センターが担い、八言語の書類作成、印刷、広報などを行っています。

最近は大學生や中学生も準備段階から参加しており、浜松の多文化社会を実感し、働きかける機会を提供しています。「彼らの母国語で話したいと思った」「外国人を取り巻く現状が分かった」「日本社会も変わらなくてはと思った」といった感想が寄せられ、社会教育の場としても評価されています。

## 「コミュニティ・アートで多文化の豊かさ」を共有

「市民活動は自分たちの思いを伝える表現活動」多様な文化が共生する社会は豊かだ

という信念の下に、「コミュニティ・アートを用いています。アートには、多様な市民の参加を促し、言葉とは異なり軽やかに楽しく問題の本質を伝える力があります。また、アートを創造する過程は豊かな対話・相互理解の機会であることを実感しています。

二〇〇三年の「ミューラル・プロジェクト」では、地域の課題やメッセージを壁画に描いて市民と共有する中南米由来の文化に学び、外国人の高校生たちと県立高校芸術科との協働で「あきらめないで学ぶことにより未来は拓ける。君は一人ではない!」というメッセージを描きました。色塗りに子どもから大人まで多くの市民が参加して市民の高い関心を集め、日本イベント産業振興協会の「イベント大賞特別賞」を受賞しました。

昨年は、南米出身の高校生たちとビデオ短編「私のルーツ、私の希望」を日系アメリカ人の映像作家の指導で製作。祖父の南米移民のルーツに始まり、日本へ来て、一五歳にもかかわらず仕事一筋で過ごした日々、進学をめぐるの回り道、いじめからの立ち直



↑ 3×11mの巨大なミューラル

り、出稼ぎの親たちへのメッセージ、高校に通うことで見えてきた夢…。彼ら自身が台本を書いて編集した映像には、二つの大陸をまたいだ歴史と経験が濃縮されています。学校や各地の支援団体などで上映されて、反響を呼んでいます。

今夏若者たちの「全国交流会」の導入では、在住ブラジル人による「演劇ワークショップ」を取り入れました。身体を動かすことに始まり、さまざまな設定で即興のやりとりを繰り返して、最後は二組に分かれて短い創作劇を発表。日本人なら恥ずかしがったり、尻込みしそうなところを、実に生き生きと参加する若者たちの表現の豊かさは、スタッフも驚くほどのものでした。初めて出会う人と人が、エネルギーや知恵を出し合い、ぶつかり、協力しながら何かを創り、ほかの人に伝える活動を通して新しい自己に出会う絶好の機会になりました。

今後もそれぞれの事業を通じて、「支える・支えられる」という関係を超え、外国人自身が立ち上がり、日本人も彼らの課題や多文化の豊かさを共有、共感できる社会をつくっていきたいと思っています。



↑ 「エレベーターの中」を演じる若者たち